【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	秋田県

Ⅰ　学校の概要　（平成１５年４月現在）

学校名	羽後町立西馬音内小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	１	１	２	２	１	１１	１７
児童数	４４	４４	４５	３５	４０	４５	１	２５４	

Ⅱ　研究の概要

１　主　題

さんさんと　えがおかがやく　オレンジ学習
意欲的に学び，確かな学力を身につけることができる子どもの育成
～子どもの願いをもとに子どもと共に創り上げる授業を目指して～

２　研究内容と方法

（１）実施学年・教科（理由）

全学年国語（前年度までの「話す・聞く」力の育成を基に，更に個々の「読む」能力を引き上げるため。５・６年生には教科担任制を取り入れ系統性を重視した指導を追究する。）
全学年算数（前年度までの算数科での実践を基に，更に個に応じた教材や指導方法・形態の工夫・改善を追究するため。５・６年生には教科担任制を取り入れ系統性を重視した指導を追究する。）
３～６年総合的な学習（各教科で得た基礎学力を活用しながら課題解決学習を進めることで，生きる力の育成を目指す。）

（２）年次ごとの計画

平成14年度

○テーマ　　さんさんと　えがおかがやく　オレンジ学習
意欲的に学び，確かな学力を身につけることができる子どもの育成
～子どもの願いをもとに子どもと共に創り上げる授業を目指して～

○研究の見通し
- 学習に対する一人一人の児童の興味・関心や意欲，既習事項の理解度などを把握し，提示する課題や教材・教具を工夫することで，子どもは課題を自分のものとしてつかみ，意欲をもって学習に臨むことができるであろう。
- 少人数学習・コース別学習・合同学習・個別学習等，多様な指導形態を工夫して一人一人の興味・関心や理解度に応じた授業を構築することによって，子どもは自分に合った学習方法や内容を選択し，より多くより深く友達や教師とかかわって主体的に学習に取り組むことができるであろう。
  また，教師の専門性を生かした授業や２学年の系統性を見通した指導によって，子どもの意欲の高まりと学習の深まりを一層期待できるであろう。
- 学習過程における評価活動（自己評価・相互評価）や教師による診断的・形成的・総括的な評価で子どもの学習状況をとらえながら指導を進めることによって，よりきめ細かに子どもに合った支援をすることができ，一人一人の確かな基礎・基本の定着につながるであろう。

○研究内容・方法

Ⅰ　教材の開発について

「さんさんタイム」の設置と活用（水曜日５校時・３年生以上・国語と算数）

趣　旨→子どもの興味・関心や習熟の度合いなどの実態に応じた補充的・発展

的な学習のカリキュラムや教材の開発と実践

Ⅱ　指導方法・指導体制の工夫改善について

教科担任制の導入（５年生２学級と６年生２学級・国語と算数）

趣　旨→重点教科である国語と算数の指導内容の２学年間の系統性を考慮すると共に，教材研究を密にすることによる指導効果をねらう。

少人数授業の積極的な導入（１・２・５・６年生国語　３・４・５・６年生算数）

趣　旨→子どもの学習への多様性に応じて一人一人にきめ細かな指導をすることにより，主体的な学習や基礎・基本の定着をねらう。

Ⅲ　評価を生かした指導の改善について

自己評価・相互評価カードの活用

授業単元の記録（教師の振り返り）

個人カルテの作成と活用（全学年・算数）

趣　旨→客観的データに基づく子ども一人一人の実態の把握と授業改善への波及をねらう。

平成15年度

○テーマ　さんさんと　えがおかがやく　オレンジ学習

意欲的に学び，確かな学力を身につけることができる子どもの育成

～子どもの願いをもとに子どもと共に創り上げる授業を目指して～

○研究の見通し

・１４年度のものを継続

・追加　子どもの思いや願いをくみ取る授業評価が授業改善につながり，子どもと共に授業を創り出すことによって確かな学力の向上を期待することができるであろう。

○研究内容・方法

（１）重点教科・領域を拡大しての授業実践

・国語・算数・総合的な学習を重点とした授業実践

（２）学習意欲の向上を図り，発見と理解を実感できる教材の開発

・子どもの実態に応じた補充的・発展的な学習の時間「さんさんタイム」の実施（水曜日５校時・３～６年生・国語と算数）

・子どもの願いを受け止め，問題解決学習を進める単元構成の工夫

・一人一人を大切にした補助教材・学習シート・学習手引き等の開発

（３）授業の質を上げる教師一人一人の指導方法の改善

・校内授業研究会や学団部研修会の実施

（４）教師の専門性を生かした指導と個に応じたきめ細かな指導の工夫

・教科担任制の実施（３年生：書写・音楽／４年生：体育
５年生：国語・算数・理科／６年生：国語・算数）

・少人数指導の推進

（５）子どもの願いを授業作りに生かす評価の工夫

・単元構想に生かすための意識調査や診断的評価の実施

・子どもとの話し合いを基にした，単元の組み立ての工夫

・子どもの願いや思いを把握する自己評価カードの工夫

（６）指導に生かす評価の工夫

・診断的評価を生かした指導過程や教材の工夫

・評価規準に基づいた形成的評価・総括的評価の日常化と指導への発展

（７）学力や意識の変容を見る追跡調査の実施

・国語・算数の意識調査結果の分析と考察

・少人数指導・教科担任制についての意識調査結果の分析と考察

	・秋田県学習状況調査・ＣＲＴ学力検査結果の分析と考察 ・個人カルテの集積と活用（全学年：算数） （８）公開授業研究会の実施と２年間の成果・課題の発信 ・１０月１７日（金）自主公開研究会実施 ・研究紀要の発行 （９）子どもの学習活動に対する保護者の意識や願いの把握と学年経営への活用 ・保護者アンケートの実施と分析 ・学級・学年経営の見直しと家庭学習の在り方の見直し ※子どもの学習習慣の形成や学力向上に当たって，保護者の理解・協力は絶対不可欠であるので，子どもの学習について保護者の願いを把握した。

平成16年度	○テーマ　さんさんと　えがおかがやく　オレンジ学習 意欲的に学び，確かな学力を身につけることができる子どもの育成 ～全教育活動での学びを通して～ ○仮説　・１４年度・１５年度のものを継続 ・追加　・日々の学習指導の積み重ねと同時に，基本的学習習慣の徹底や豊かな心を育む道徳教育の充実，個性を発揮しよりよい友達関係を築く生徒指導の充実など全教育活動を通して指導を実践していくことによって，確かな学力の向上が期待できるであろう。 ・子どもの実態を把握し，各教科等で身に付けさせたい表現力を明らかにし，問題解決の場や伝え合いの場を大事に指導を進めることで，子ども一人一人の表現力を伸ばすことができるであろう。 ○研究内容・方法 （１）　全教科等において教材・指導・評価の開発を総合的に生かした授業実践 （２）　各教科等において育てたい表現力の明確化 （３）　学習意欲の向上を図り，基礎・基本を確実に身に付けることができる教材の開発と補充的・発展的学習，繰り返し学習，個別学習の時間の確保 （４）　授業改善のための学団部研修会の充実と教師一人一人の指導方法の改善の追究 （５）　教師の専門性を生かした指導と子どもの適性に応じた効果的な少人数指導の工夫 （６）　子どもの願いや変容を授業作りに生かす評価の工夫 （７）　１単位時間毎のねらいと評価の明確化と子ども一人一人への適切な支援の工夫 （８）　学力や意識の変容を見る追跡調査の実施 （９）　公開授業研究会の実施と３年間の成果・課題の発信 （10）　次年度以降の実践研究の計画

（３）研究体制

全体研修会 ―― 研究推進委員会

研究にかかわる協議とその深化　　全体計画立案と計画にかかわる協議

研　究　部

└ フロンティア研究部

（１）　教材開発研究部

教科等の特性をとらえ，学習過程の中で子どもが安心して取り組んでいけるような発展的・補充的教材資料について研究を進める。

（２）　指導方法・体制開発研究部

子どもが学習に主体的に取り組み，分かる喜びや楽しさを拡大していく指導方法や形態の在り方について研究を進める。

（３）　評価開発研究部

自己評価や相互評価のあり方の研究を進めると共に，指導に生きる授業評価の研究を進める。

- 拡大国語部・算数部
- 主要教科部
- 技能教科部
- 領　域　部

指導計画の立案と推進指導案の検討
重点教科・領域にかかわる研修に活用

Ⅲ．平成１５年度の成果及び課題

○成　果

①　１２月に行ったＣＲＴ標準学力検査の結果，下の表から分かるように，どの学年もほとんど全国得点率を上回る結果となった。また，平成１３～１５年度の推移を見ても，全国得点率を上回る学年が一年毎に増えてきている。

ＣＲＴ標準学力検査　　各学年における３年間の「教科総合得点率」の推移と全国得点率との比較(関心・意欲除く)　　(単位%)

学年		国語 H13	国語 H14	国語 H15	算数 H13	算数 H14	算数 H15	社会 H15	理科 H15
１年	学年得点率	81.7 ⇧	84.3 ⇧	85.5 ⇧	83.7 ↓	89.3 ⇧	89.3 ⇧		
	全国得点率	80.4	76.6	76.6	83.8	85.9	85.9		
２年	学年得点率	84.5 ⇧	69.2 ↓	75.0 ⇧	77.0 ⇧	75.8 ↓	80.6 ⇧		
	全国得点率	80.5	73.0	73.0	76.3	80.0	80.0		
３年	学年得点率	71.3 ↓	76.7 ⇧	81.3 ⇧	71.3 ↓	85.5 ⇧	85.2 ⇧	87.6 ⇧	87.7 ⇧
	全国得点率	74.3	71.5	71.5	75.2	78.0	78.0	80.2	77.7
４年	学年得点率	71.1 ↓	76.5 ⇧	84.6 ⇧	68.6 ⇧	78.1 ⇧	83.6 ⇧	84.0 ⇧	86.6 ⇧
	全国得点率	74.4	74.8	74.8	68.0	75.2	75.2	76.8	76.5
５年	学年得点率	69.4 ↓	73.8 ↓	77.9 ⇧	65.5 ↓	68.9 ↓	73.0 ⇧	79.7 ⇧	77.0 ↓
	全国得点率	74.1	74.0	74.0	68.5	70.5	70.5	73.8	77.2
６年	学年得点率	70.7 ↓	76.9 ↓	78.8 ⇧	75.5 ↓	73.9 ⇧	68.8 ↓	76.2 ⇧	83.3 ⇧
	全国得点率	75.0	77.9	77.9	77.0	72.8	72.8	69.6	80.7

②　県の学習状況調査の結果，昨年度との２年間の学習通過率を比較すると，下の表のようにどの学年も各教科で向上していることが分かった。

秋田県学習状況調査　　平成 14 年度・15 年度 2 年間の各教科の学習通過率の比較

	国　語	算　数	社　会	理　科	合計平均
４　年	９．７ ⇧	２．１ ↓		４．５ ⇧	４．０ ⇧
５　年	１４．０ ⇧	６．８ ⇧		２４．４ ⇧	１５．０ ⇧
６　年	２．３ ↓	３．５ ⇧	６．２ ⇧	１．９ ⇧	２．３ ⇧

(単位%)

③　昨年までの学習シート類がファイルにまとめられ,すぐに使えるものがそろい,授業に役立てることができた。また，身近な生活や子ども達の活動の中から教材化したものを授業に用いることで，学習意欲の向上や継続につながった。

④　コース別学習やＴＴ等の少人数授業の推進によって，子どもの思考の多様性や個々のつまずきに対応することができた。子どもにとっても問題解決学習の過程を学び，個性を発揮し，主体的に頑張る場として少人数の学習形態は有効だった。３～６年生の意識調査で，「学年をグループに分けて勉強することはよかった」については昨年比で６％の上昇，「学級に二人の先生がいて勉強することはよかった」については昨年比で３％の上昇が見られた。子どもの学習ペースや希

望に添い丁寧な支援ができたことが学習意欲の向上や主体的な学習につながったものと考える。
⑤　中学年の音楽・体育，高学年の国語・算数で２学年を通した教科担任制を取り入れた。２学年の発達段階や付けたい力等つながりを強く意識した指導をすることによって，子どものめあての達成状況や成長の様子をつぶさに感じ，次の指導に生かすことができた。３～６年生の意識調査で，「教科担任の先生による授業は分かりやすかったか」については，「そう思う」が６７％，「どちらかというとそう思う」が２５％で，９２％の子どもが分かりやすかったと感じている。
⑥　複数の教師が指導にかかわることによって，学習面，生活面での児童理解が多面的にできた。また，単元構想から教材の検討や準備・学習の評価に至るまで，教師の分業・協業や情報交換を密にすることができた。
⑦　意識調査や話し合い，評価カード等で子どもの願いを捉えることで単元構成や指導過程，教材の工夫に生き，子ども達の学習へ向かう意欲が増し，積極的に学習に向かう姿が見られた。
⑧　重点単元では，評価計画をもった授業を行うことで，子どもの見取りがしっかりとでき，支援につなげることができたし，単元を通して確かな評価をすることができた。
⑨　保護者アンケートを基に学級経営を見直す機会をもった。保護者の学習への意識が少しずつ高まり，通知表などへの保護者の声も変わってきている。

○**課　題**
①　職員の声をまとめた学校教育マネジメント（各教育活動のメリット・デメリットの要素を分析し，＋面を生かして特色ある学校づくりのアイデアを考え，－面からはその改善案を検討する）を基に，フロンティア３年目の特色ある取り組みを考えていく。
②　全教科・全領域における授業改善を図っていく。研究体制や方向性を全員で確認した上で，教材開発，指導方法・体制の開発，評価の開発の３つの柱について一人一人がテーマをもって重点的に研究を進めていく。
③　校内授業研究会と共に各組織による研修（学団部・フロンティア研究部・教科領域部等）を充実させ，よりよい授業改善のための授業実践，協議会，情報交換を図っていく。
④　各教科・領域で付けたい力や基礎・基本の定着を図るための教材の開発と，効果的な補充的・発展的学習を実施すると共に，繰り返し学習や個別学習の時間を確保する。
⑤　教科担任制や少人数授業の成果を生かしていく。子どもの実態をふまえた上で，学年・教科・単元・時間等の見直しを図り，実践体制を整えていく。
⑥　評価規準をより吟味すると共に，一時間毎の到達目標を意識しおおむね満足(B)まで全員を引き上げるために，授業のねらいや判断基準の設定力の向上を図る。また，努力を要する(C)の段階の子どもに対する支援を十分にする。更に評価規準と整合性があり，子どもが学習内容を意識できる評価カードの工夫をする。
⑦　羽後町教育振興協議会の教科部との連携を進めていく。
⑧　教具の保管場所,情報機器等の常時設置を図り活用しやすい環境づくりをする。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取り組み

○単元における形成的評価や総括的評価の実施
○秋田県学習状況調査の実施（　７月　4・5年：国語・算数・理科　4～6年：国語・算数・社会・理科）
○ＣＲＴ標準学力検査の実施（１２月　1～6年：国語・算数　3～6年：社会・理科）
○子どもの学習に対する意識調査の追跡(年２回　国語・算数・少人数学習・教科担任制)
○個人カルテの集積と活用　（算数「数と計算」）

Ⅴ　フロンティア校としての成果の普及について

本校保護者への説明	年４回　研究の方向性・研究の成果と課題について
校内・町内授業研究会開催	6月・7月・9月・12月　近隣地区小・中学校への授業公開
自主公開研究会開催	10月19日　全県小・中及び関係機関への授業公開と研究発表
県南地区「確かな学力」向上推進協議会	１月21日　県南地区全小学校へ実践報告

○現在ホームページ作成中

【新機構・継続校】　　□１５年度からの新規校　　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　　□６学級以下　☑７～１２学級　□１３～１８学級
□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　　☑少人数指導　☑ＴＴによる指導
☑一部教科担任制　□その他

【研究教科】　　☑国語　□社会　☑算数　□理科　□生活　□音楽
□図画工作　□家庭　□体育　☑その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　　☑有　□無